

NPhA

隔月刊誌
[エヌファ]

NPhA

Round Table Discussion

特別座談会 若手経営者に聞く「薬局経営の未来」

専門職化、AI機器導入などで
サービスの質向上と効率化推進
地域密着の深化と既存店舗の価値向上に向け
人材育成を強化

株式会社バル・オネスト(埼玉県)
代表取締役社長

齋藤 裕之 氏

株式会社ノムラ薬局(東京都)
代表取締役社長

古田 智裕 氏

株式会社アンディ(東京都)
代表取締役

佐藤 啓介 氏

Investigation

NPhA 医療制度検討委員会

「令和8年度調剤報酬改定に係る
保険薬局への影響調査報告書(その1)」

調剤管理料は

79%の薬局でマイナス

Project

NPhA災害対策・社会貢献委員会

小児食物アレルギー対策で啓発キャンペーン展開
薬局から始める「平時の防災」、
地域の防災力向上に貢献

Visiting

「訪問シリーズ」薬局DX

外出患者・LINE利用者など

AIが管理、事務職の受付業務を半減

株式会社なの花東日本 なの花薬局 昭島駅前店(東京都)



4 Round Table Discussion

特別座談会

若手経営者に聞く～薬局経営の未来～

専門職化、AI機器導入などで
サービスの質向上と効率化推進

株式会社パル・オネスト (埼玉県)

代表取締役社長 齋藤 裕之氏

株式会社ノムラ薬局 (東京都)

代表取締役社長 古田 智裕氏

株式会社アンディ (東京都)

代表取締役 佐藤 啓介氏

16 Investigation

NPhA医療制度検討委員会

「令和8年度 調剤報酬改定に係る保険薬局への影響調査報告書(その1)」公表
調剤管理料は79%の薬局でマイナス

10 Project

NPhA 災害対策・社会貢献委員会

小児食物アレルギー対策で啓発キャンペーン展開

薬局から始める「平時の防災」、地域の防災力向上に貢献

20 Visiting

訪問シリーズ「薬局DX」

外出患者・LINE利用者などAIが管理、事務職の受付業務を半減

株式会社なの花東日本 (東京都) 調剤事業部ブロック長 本廣 理絵氏(薬剤師)

なの花薬局 昭島駅前店 (東京都) 薬局長 吉野 翠氏(薬剤師)

14 Announcement

「第20回 日本薬局学会学術総会」見どころ・聴きどころ —10月17日(土)・18日(日)に大阪で開催—
次世代育成のテーマ拡充、次の時代へ踏み出す契機に

Nippon Pharmacy Association

協会ロゴマークの由来

協会ロゴマークは、私たちの仕事である調剤業務に古くより使用されている重要な器具・薬匙(スパーテル)を基本にあらわし、さらに日本保険薬局協会の英名 Nippon Pharmacy Association の略である NPhA を薬匙の上に広げて重ね、空を翔ける鳥のようにイメージしました。今後、日本保険薬局協会が大きく羽ばたき成長するよう、希望を込めて作成されています。

好評連載

19 Partnership

薬剤師との連携を目指して

中部薬品株式会社

東濃中部医療センター前薬局 (岐阜県)

山本 寧音氏 教育採用部 採用課 甲斐 愛也佳氏

23 Local Circumstances

NPhA 都道府県担当者に聞く地域事情「愛媛県」

株式会社レディ薬局 執行役員調剤本部長兼調剤業務部長 篠原 稔治氏

24 Beyond The Sea

米国&英国からのレポート

アメリカ テキサス州薬事会の役割 大野 真理子氏

イギリス 2026年4月に誕生した「王立薬学学会」 國分 麻衣子氏

28 At The Top

地域のトップランナー

株式会社 BloomingSoul (東京都)

30 Diary

薬局管理栄養士ダイアリー

株式会社千葉薬品(千葉県) 営業統轄本部 ファーマシー営業部 予防グループ 管理栄養士 木内 佳奈子氏

32 NPhA 新会員紹介

33 ファーマシーセミナーオンライン研修 開催案内/認知症研修認定薬剤師制度 第10回認定試験スケジュール

34 編集後記

表紙フォト(風景): bernd dittrich / unsplash



若手経営者に聞く

～薬局経営の未来～

専門職化、AI機器導入などで サービスの質向上と効率化推進

地域密着の深化と既存店舗の価値向上に向け 人材育成を強化

日本経済は不透明な国際情勢の影響も受け、円安、インフレ、人件費の高騰が続く一方で、生産人口減少は加速し、医療財政の制約は一段と強まっています。2026年度診療報酬改定では都市部の区分が新設され、門前依存への減算が導入されるなど、各社の出店戦略にも影響が見られます。全国的には新たな地域医療計画の策定が進められ、地域包括ケアの一翼を担う薬局

は、その役割の重要性が増しています。

こうした複雑な環境のなか、次代を担う若手薬局経営者3氏に将来を見据えた薬局経営の方向性について聞きました。事務職の体系的な専門職化、AI機器の試行や導入、在宅対応のセンター化など、既存店舗の地域密着と機能・価値向上を焦点にした取り組みが語られました。

出席者 (発言順)

株式会社パル・オネスト (埼玉県)
代表取締役社長

齋藤 裕之氏

Hiroyuki Saito

株式会社ノムラ薬局 (東京都)
代表取締役社長

古田 智裕氏

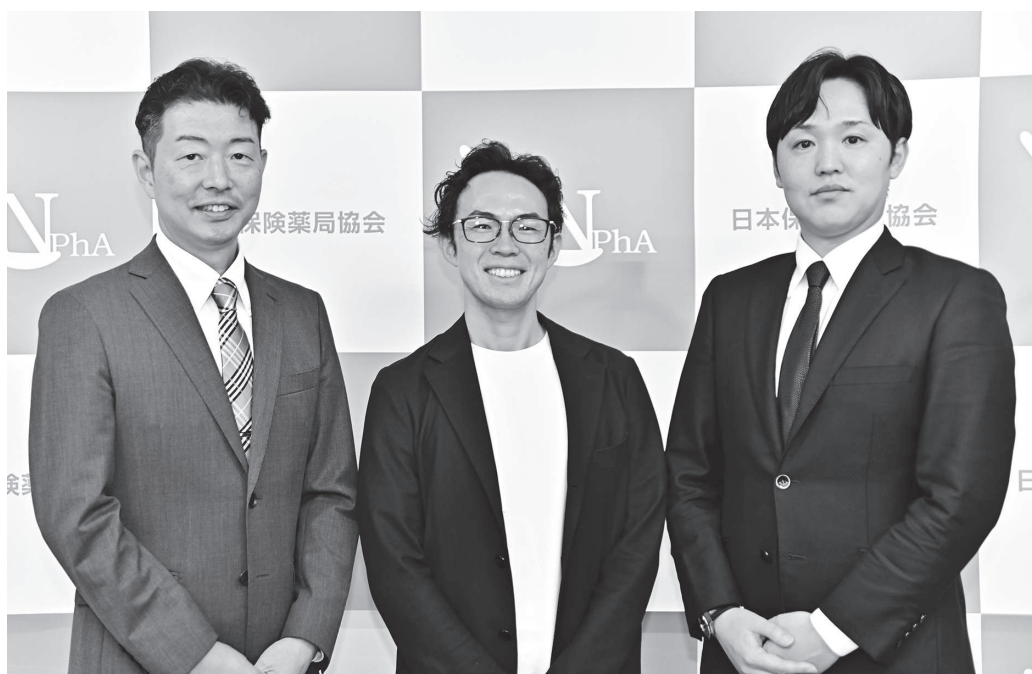
Tomohiro Furuta

株式会社アンディ (東京都)
代表取締役

佐藤 啓介氏

Keisuke Sato

左から古田氏、齋藤氏、佐藤氏



ドミナント展開により 地域密着型のサービスを深化

——初めに各社の事業概要と薬局展開の特徴や近年、始めた取り組みについてお聞かせください。

齋藤 弊社では現在、37店舗の調剤薬局を運営しています。薬剤師数は150人程度です。特徴としては、埼玉県川越市や、池袋駅につながる東武東上線の沿線に店舗が非常に多く、全体の7割が集中しています。他に所沢エリア、さいたま市近くの県南部エリアにも出店していますが、基本的に埼玉県南西部でドミナント展開をしています。本社は富士見市みずほ台ですが、この地域では半径1.5km圏内に13店舗ほどあり、かなり集中しています。

そのほかに、薬局には隣接しない形でカフェを1店舗開設し、地域とより密に関わっていけるモデルを目指しています。

古田 弊社は東京都の日野市、八王子市を中心に26店舗の薬局をドミナント展開しています。特に日野市では、処方箋シェア率は25%に達します。新卒者にも、4人に1人はノムラ薬局を使っていたと説明しています。もともと、薬屋からドラッグストア、次いで調剤薬局へとシフトしてきましたので、現在も5店舗ほどがドラッグストア併設型の店舗です。薬剤師数は110人前後で推移しています。

最近の取り組みは、広島県のオール薬局さんの「オールラボ」を見学し、弊社店舗にも「ノムラボ」と名付けたブースを設置しました。オール薬局さんのように管理栄養士が常駐し、食事に関する相談に応じています。処方箋という通行手形がなくても薬局に足を運んでもらえるように、地域コミュニティとのつながりを作る取り組みです。今年4月には日本栄養士会から認定栄養ケア・ステーションの認定も受け、現在は栄養指導の件数が増えています。医療機関へも働きかけ、近くのクリニックへの出向の形と、先生から患者さんを紹介いただく形で栄養相談に取り組んでいます。

佐藤 弊社は田辺薬局グループの一つで薬局は3店舗、薬剤師数は約20人です。グループ全体で首都圏、主に東京都と神奈川県でのドミナント展開をしており、千葉県、埼玉県、茨城県を含む1都4県で運営しています。特徴として介護保険制度が始まる以前の

1994年から在宅医療に参画していましたので、新卒者等の採用の際には、「在宅医療のパイオニアです」と話しています。近年はグループとして有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を3施設、訪問看護ステーションも運営しています。そのほか認定栄養ケア・ステーションを中心に、管理栄養士による特定保健指導の受注件数が伸びています。

時間をかけた丁寧な採用面談により 互いのミスマッチを低減

——人材確保と採用の取り組み、工夫についてお聞かせください。

古田 数年前に専任担当者を採用してから、毎年、薬剤師5人、医療事務5人の新卒者の確保目標はクリアしています。ただ、同じくらいの人数が自然離職するので、もう少し目標値を上げて良いかなとは思っています。

また、弊社はドミナント展開なので転居を伴う異動のないことが、学生には響くようです。店舗タイプも病院の門前型、広域型、在宅医療の専門性が高い店舗など、一通りの経験ができることも好材料のようです。ただ、中途採用はエージェントに頼らざるを得ず、人材確保には苦労しています。

佐藤 弊社でも基本的に転居を伴う異動がなく、関東・首都圏に住みたい、住み続けたい方から選ばれる傾向はあります。以前は在宅への取り組みが強みでしたが、今は一人ひとりがどのような薬剤師になりたいか、その実現を支援できる環境づくりを大切にしています。

また、田辺薬局グループとして有志によるチーム活動を行っています。例えば採用推進チームやSNSプロジェクト、学術、DIなど約10チームあり、店舗以外の業務を通じて幅広いつながりを作れることも、弊社の特徴であり社風です。そこは弊社が選ばれる理由の一つだと考えています。また、毎年薬剤師の採用目標はグループとして10人です。

齋藤 グループ全体で人事交流があるということですね。

佐藤 基本的にグループ採用ですので交流はスムーズです。一方、事務員の確保は、都心であるほど難しいと感じています。人件費も上がっていますので、業

NPhA 災害対策・社会貢献委員会

小児食物アレルギー対策で啓発キャンペーン展開

薬局から始める「平時の防災」、地域の防災力向上に貢献

独自作成したアレルギー表示カードの実装等を目指す「NURIE-CPプロジェクト」

出席者（発言順）

日本保険薬局協会（NPhA）

特任部長

野村 洋介氏

（スギホールディングス株式会社 医療渉外部、薬剤師）

たんぼぼ薬局株式会社（岐阜県）

薬局事業本部 業務サポート部

薬局支援課 課長代理

緒方 孝行氏

（NPhA 災害対策・社会貢献委員会委員、薬剤師）

田辺薬局株式会社（東京都）

認定栄養ケア・ステーション

ウェルビーイング鶴見（神奈川県）

小磯 夕貴氏

（NPhA 災害対策・社会貢献委員会委員、管理栄養士）

災害時、食物アレルギーのある子どもに安全な食事を届けるには、平時からの備えと情報共有が欠かせません。NPhA 災害対策・社会貢献委員会は、薬局を地域の身近な医療インフラと位置付け、小児食物アレルギー対策を切り口に、防災啓発を日常業務へ組み込む「NURIE-CPプロジェクト」を立ち上げ、8月から9月にかけて全国50薬局でキャンペーンを展開しました。独自に「アレルギー表示カード」を作成したほか、塗り絵を活用。キャンペーンの狙いと薬剤師・管理栄養士の連携、今後の展望について3氏に聞きました。

「NURIE-CPプロジェクト」の告知ポスター



防災啓発機能を期待されている薬局

——今回の「NURIE-CPプロジェクトでは、薬局が平時から防災に取り組むことをテーマに掲げています。まず、このプロジェクトの狙いから、お聞かせください。

野村 今回のプロジェクトで最大のポイントは、「薬局が平時から防災に取り組む」ということです。これまでも薬局が防災キャンペーンを実施した報告はありますが、その成果、現場で継続して実践できる取り

組みだったのかまで検証された例は、私が調べた限りでは、ほとんどありませんでした。一方、薬局が地域住民にとって身近な医療拠点であり、防災啓発の場として有効であることは、多くの団体が認識しています。小児食物アレルギーに関する管理栄養士や薬剤師への調査でも、「薬局に期待する」という声は少なくありません。ところが、薬局で資材等が作られていても、現場で継続して活用するまでには至っていません。そこで今回は、管理栄養士や薬剤師などの専門職が関わり、薬局という地域のインフラを活用して、防



野村洋介氏

災を「特別なこと」ではなく「日常業務の延長」で実践できる仕組みづくりを目指しました。

もう一点、2023年に国際薬剤師・薬学連合（FIP）が、薬剤師は非常用キットの準備や医薬品の安全な保

管方法など、災害や緊急事態への備えについて市民を教育する役割を担うべきだという声明を出しています。国によって制度の違いはありますが、薬剤師による地域住民への防災啓発は、国際的にも求められている役割だと言えるでしょう。

——今回、小児食物アレルギーをテーマにしたのは、どのような問題意識からですか。

緒方 きっかけは、災害時の避難所で食物アレルギーのあるお子さんが困っているという問題でした。避難所では炊き出しや支援物資が届きますが、「材料に何が使われているのか分からない」「アレルギーに配慮された物資が届かない」ということが起こっていました。さらに、保護者とはぐれたお子さんが、自分のアレルギーについて十分に説明ができない場合もあり得ます。

また、食物アレルギーは「少量でも反応する」「加熱すれば食べられる」など個人差があります。その情報が支援者に伝わらなければ、安全に食事を提供できません。災害時でも、要配慮者が平時とできるだけ変わらない環境を整えたい。そう考えたことが、アレルギー表示カードの作成につながりました。

災害時の「食べられない」を防ぐ表示カード

——災害時において、食物アレルギーのあるお子さんへの支援はどのように行われているのですか。

緒方 多くのご家庭では、アレルギー対応食品を日頃から備蓄していますが、大規模災害ではそれだけでは賄いきれません。発災直後は自治体などによるプッシュ型支援、その後は必要な物資を個別に届けるプル

型支援へ移行します。その間に「どのようなアレルギーがあるのか」「何を避けるべきか」という情報が共有されなければ、支援する側も対応できません。普段から患者さんと接する薬局が、その情報を整理し、災害

時にも役立つ形で提供することに意味があると考えました。

野村 東日本大震災でも、アレルギー対応食品が避難所へ届くまで日数がかかったという報告があります。だからこそ、「日頃から備蓄しましょう」という声かけを薬局が行うだけでも、大きな意義があると思っています。

——今回、作成したアレルギー表示カードは、どのような工夫を盛り込んだのですか。

小磯 このカードは、災害対策・社会貢献委員会のメンバー全員で何度も話し合って作りました。自治体などにも同様のカードはありますが、大きさや記載内容はさまざまです。災害時に素早く確認できるよう、私どもでは名刺大にして「本当に必要な情報だけを載せる」ことに徹底しました。表面には特定原材料を中心としたアレルギー情報と、「少量でも反応する」「加熱すれば食べられる」といった注意点の記入欄を設けています。裏面には氏名や緊急連絡先、「エビペン」「ネフィー」など使用している薬剤名や保管場所、発症時の主な症状などを整理しました。お薬手帳と重複する内容は削り、災害時にすぐ使える情報だけを残しています。

——実際に、どのように活用されることを想定しているのですか。

小磯 専用のタグケースに挟み込み、防災リュックへ取り付けていただくことを想定しています。特に、お子さんだけで避難している場合、「自分は何のアレルギーがあるのか」「どの程度まで食べられるのか」を、落ち着いて説明することは難しいと思います。例



緒方孝行氏

第20回

日本薬局学会学術総会

見どころ・聴きどころ

第20回日本薬局学会学術総会が、2026年10月17日(土)・18日(日)の2日間、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)で開催されます。今回のテーマは「思いやりの心をもって～現況と奮闘しなはれ～」。薬局・薬剤師を取り巻く環境が大きく変化するなか、地域医療の担い手として、いま私たちが何を考え、どのように行動すべきかを、多職種・多領域の視点から学び合う機会となります。

次世代育成のテーマ拡充、 次の時代へ踏み出す契機に

「心のケア」「地域フォーミュラリ」など
現場直結の学び提供

第20回日本薬局学会学術総会 実行委員会



グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

「医学のレジリエンス」で澤芳樹氏が記念講演

記念講演では、大阪大学名誉教授、大阪けいさつ病院総長である澤芳樹先生より、「医学のレジリエンス～みらいへの挑戦と貢献～」をテーマに、心不全治療、心筋再生医療、iPS細胞を活用した未来医療の社会実装など、医学の最前線についてご講演いただきます。医療の進歩を薬局・薬剤師がどのように受け止め、患者さま支援へつなげていくかを考える内容です。また、特別講演では、妙心寺退蔵院副住職の松山大耕先生をお招きし、「仏教と医療から考える終末期の心のケア～生きる意味を問い直す～」をテーマにご講演いただきます。医療技術が進歩する一方で、患者さまやご家族が抱える不安にどのように寄り添い、安心を届けるのか。終末期医療や在宅医療に関わる薬剤師にとって、心のケアを考える貴重な機会となります。

シンポジウムでは、「災害医療」「地域フォーミュラリ」「公衆衛生」「外来がん治療」「精神科領域における医薬連携」「OTC・健康食品を活用した地域密着型ヘルスケア」など、現場に直結するテーマを多数企画しています。特に、地域医療における薬局薬剤師の存

在価値を多角的に議論する内容が充実しており、日常業務に直結する学びが得られる構成となっています。

加えて、「薬学生が描く薬局の未来」や「デジタルネイティブ世代が描く未来——薬学生・薬剤師に対するDX教育」など、次世代育成をテーマとした企画も大きな見どころです。薬学生の参加費を無料とし、多くの学生に参加いただける環境を整えております。

完全リアル開催で一体感を創出

そして、今回の大きな特徴は「完全リアル開催」であることです。これまでのハイブリッド形式ではなく、現地参加だからこそ得られる熱量や、偶然の出会いを大切にしたい開催を目指しています。一般演題、ポスター発表、企業展示も多数予定されており、最新の知見や実践事例に触れる絶好の機会です。全国の薬剤師・薬学生・関係職種が直接顔を合わせ、悩みや経験、未来への想いを共有できることこそ、本学術総会の大きな価値です。第20回という節目を迎える本学術総会が、薬剤師・薬局の未来を考え、次の時代へ踏み出す契機となることを願っております。大阪の地で、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第20回 日本薬局学会学術総会

[会 期] 2026年10月17日(土)・18日(日)
 [会 場] グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)
 [大会長] 重森 裕之 (株式会社フロンティア 代表取締役社長)



会場のメインホール

ポイント1 ≫ 多彩なプログラムが満載！

保険薬局薬剤師に求められている本質を追求するプログラム企画が目白押しです！

■ 第20回 日本薬局学会学術総会 主なプログラム (敬称略)

1	基調講演 10月17日(土) マイナンバーカードの広がり と医療DXのこれから	演者 三浦 明 厚生労働省 政策統括官 (情報政策担当)
2	理事長講演 10月17日(土) 薬学・薬剤師の将来展望と薬局学会	演者 政田 幹夫 一般社団法人日本薬局学会 理事長 福井大学医学部名誉教授・大阪医科薬科大学名誉教授
3	特別講演 10月17日(土) 仏教と医療から考える終末期の心のケア ～生きる意味を問い直す～	座長 猪阪 典生 株式会社フロンティア 取締役 演者 松山 大耕 妙心寺退蔵院 副住職
4	記念講演 10月18日(日) 医学のレジリエンス ～みらいへの挑戦と貢献～	座長 鈴木 匡 名古屋市立大学 特任教授 演者 澤 芳樹 大阪大学 名誉教授/大阪けいさつ病院 総長 第32回日本医学会総会 会頭
5	シンポジウム 10月17日(土) 日本薬局学会が目指すべき認定制度、 専門薬剤師とは	オーガナイザー 望月 真弓 日本薬局学会 副理事長 慶應義塾大学名誉教授 座長 鈴木 匡 日本薬局学会 研修委員会委員長/名古屋市立大学 特任教授 山浦 克典 日本薬局学会 認定制度委員会委員長/慶應義塾大学薬学部 教授 演者 安原 真人 帝京大学 薬学部 特任教授/ 公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構 代表理事 益山 光一 東京薬科大学薬学部 教授 パネリスト 中村 敏明 大阪医科薬科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授 鎌尾 まや 神戸薬科大学 エクステンションセンター 講師
6	シンポジウム 10月17日(土) 女性が“安心して相談できる薬局”とは、 ～ライフステージに寄り添う 地域薬局の新たな役割～	座長 荒木 隆一 市立敦賀病院 副院長 人材確保育成センター長 矢野 良一 大阪医科薬科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授 演者 柴田 綾子 淀川キリスト教病院 産婦人科 医長 村上 理奈 一般社団法人SRHR Pharmacy Project 副代表 本田 朋子 株式会社杏林堂薬局 藤田 あゆみ 株式会社スギ薬局 人材開発部 価値向上課 担当課長
7	シンポジウム 10月18日(日) デジタルネイティブ世代が描く未来 —— 薬学生・薬剤師に対するDX教育	座長兼オーガナイザー 小林 道也 北海道医療大学 薬学部 薬剤学講座(臨床薬剤学) 教授 岡崎 光洋 秋田大学医学部附属病院 医療DXセンター 遠隔医療推進部門 准教授 演者 木下 淳 兵庫医科大学 薬学部 医薬品情報学研究室 教授 中川 左理 神戸学院大学 薬学部 臨床薬学教育研究部門 教授 各務 茂雄 株式会社スギ薬局 取締役 DXAI推進 本部長

ポイント2 ≫ 大阪の地で完全リアル開催

本学術総会は、これまでのハイブリッド開催ではなく「完全リアル開催」です！

ポイント3 ≫ 薬局、大学、行政の登壇者から、医師・栄養士・学生など多職種の講演プログラムを予定しております